

都市・農村交流事業の展開 — 科学研究費対象事業 —

科学研究費「安曇野における滞在型グリーンツーリズムと地域活性化」に関する活動

松本大学・副学長

松本大学松商短期大学部・経営情報学科長 住 吉 広 行

2006年度及び2007年度の2年間に渡った研究を行うとして、「社会学」分野の基盤研究Cに申請した。共同研究者として、建石繁明教授・山根宏文助教授、それに研究協力者として安曇野ちひろ美術館の松本猛館長と竹迫祐子副館長が登録されていた。

これまでには、松商学園短期大学に赴任した年に、「高エネルギー原子核衝突とクォーク・グルオンプラズマ生成とその検証」というようなテーマで、物理学で採択されていた。しかしその後は、国会議員選挙に対する選挙区割りのプログラム開発をテーマに何度か、社会システム工学分野に応募したり、昨年度は今回と似たようなテーマで人文・地理学分野で応募もしていたが、いずれの場合も、もう少しという判定で採択されていなかった。今回も、内容には自信があっても、採択されるのは難しいと思っていた。違いは、今回の場合OR学会の研究会で何度か発表し、それなりの評価を受けていたこと、地域総合研究センターから「信州の観光と松本大学」を出版していたことなどがあつたかと思う。判定して下さった方が、ひょっとすれば学会・研究会での発表を聞いていて下さったのかと思った。

いずれにせよ、本来の研究分野「理論物理学」とは違った分野での研究が評価されたと思えて、十分にやる気を起こしてくれた採択であった事は間違いない。8月以降には新しい学部増の、かなり忙しい仕事我突然加わってしまったので、当初目標からは成果がどこまで上がったかは分からないが、初年度の研究成果を報告しておこう。

(1) 安曇野の観光資源の認識と観光のあり方を確認する活動

各地で大変頑張っている個人が数多くいるが、それらが横に繋がって全体を盛り上げるという方向が見えていないことが課題であるという認識から、広く関係者を集め、先ず顔見知りになることから始めようと、2回のシンポジウムを開催した。つながりが見えてきて、それを基盤に活動の広がりが出てきたことが成果といえる。

・シンポジウムの開催（2回） コーディネータ

フリーターキング方式による人的ネットワークの発見と構築

パネラーによるグリーンツーリズムの具体的イメージの構築

パネリスト：中村隆宣 臼井健二 等々力秀和 内山伸子

・地域社会での人的交流の形成 — ネットワークシステムの構築 —

シンポジウムに参加した方々がそれぞれの意思を確認して、コンピュータネットワークを作り上げた 増田望三郎氏の協力

(2) 都市と農村の交流 観光客誘致の可能性を調査

安曇野における滞在型グリーンツーリズムが成り立つかどうかを確認するプロセスが必要だという認識から、3つの項目で活動を行った。

- ① ゼミナールにおける研究活動の展開 安曇野でのサイクリングや合宿、乗鞍高原での山菜採り、夏休みの貸し自転車の利用状況調査（ひつじ屋・岩原知輝君）、池田町の農業関係者の組合主宰による、地場産品を利用したワインとフランス料理をテーマ

にした催しへの協力と参加（藤木シェフ、高野ソムリエ、福島明美さん、鮎沢簾さんそれに、あぶらやの内山高志さんらにお世話になった）。

② 湘北短期大学（神奈川県厚木市）との交換授業 —卒業論文へ（学友）—

本学が江ノ島・鎌倉、シーパラダイスなど海辺のツーリズムを経験し（黒崎先生・山形先生・山田学長にお世話になった）、代わりに湘北生が、安曇野でグリーンツーリズムを経験した。事務局の小池・松尾・中村・松田の各氏のほか、中野学長にも協力いただきお世話になった。また、農家民宿あぶらや、安曇野ちひろ美術館の松本猛館長、それにお蕎麦屋「山の花」に協力していただいた。

この経験から、本学の学生が安曇野におけるグリーンツーリズムが都会の若者にも受け入れられるツーリズムであることを確認できた（唐澤あゆみ—卒業文集「学友」に優秀な卒業論文として掲載された、また松本CATVでも紹介された—）

③ 武蔵野市との交流事業とアンケート調査 —農産物を介して—

シンポジウムの一つの効果として、新しい活動がゼミナール生の丸山夏樹・竹田原悠貴の両君を巻き込んで、武蔵野市との交流をテーマにした活動が展開された。この詳細は、峯岸芳夫氏の報告がこの後に掲載されている。

（3）行政との連携

行政との連携も今回の科学研究費申請時の大きなテーマの一つであった。国土交通省の企画に応募するという段階から、その採択に至るまで何度かの会合に出席し、協力していた。採択後は協議会を立ち上げ、平林安曇野市長を会長に、そして私は副会長に就任して軌道に乗せる活動に参加した。この活動は根を広げ、現在テーマ別に分科会が設けられ活発な活動が展開され、これからの安曇野の観光をリードして行く中核になるであろう。

- ・安曇野市観光ネットワーク協議会の立ち上げ —副会長への就任—
- ・国土交通省へのアプライ
- ・異業種間交流の活性化
- ・アクションプログラムに基づく活性化策の構築 —顧問への就任—

（4）研究発表など

いろいろな団体、行政分野などから講演依頼が数多く舞い込み、忙しい中であったが対応した。学会関係でも、金沢で開催された日本OR学会での研究会に参加した。こうした縁で、観光関係の論文のレフェリーまでやる羽目になってしまっている。

- ・望月会（望月会計事務所）研修会
- ・望月町商工会議所・穂高町商工会議所共催研修会
- ・松本市議会議員勉強会
- ・長野県専門学校研修会
- ・UDシンポジウム
- ・日本オペレーションズ・リサーチ学会 金沢大学

2年目も無事採択され、研究のまとめに入らなければならない。蒔いた種が育って来ているので、この経験をきちんとまとめる事も意味があると感じている。今でも、専門分野とは言い難いが、全く異なる分野からの参入者も受け入れ、話も聞いていただけるので楽しい研究活動であるといえる。新学部づくりにも、このアイデアは大いに生かされている。